

大学生活がキャリア選択に及ぼす影響要因についての研究

—半構造化インタビュー調査を用いて—

スポーツ経営組織学ゼミナール 1214154 松原 敦也

1. 研究動機・研究目的

大学とは、学術研究および教育の最高機関であり、社会に出るための準備期間でもある。また大学生活それ自体は大学での講義のみならず、部活動・サークル活動などを中心とした正課外活動、そしてアルバイトやその他私生活など多岐に渡る（三保,2016）。文部科学省（2017）によると、現在、高等学校への進学率 97%を超えている。しかし、経済産業省（2008）のデータによると大学進学率は 49%と、国際的に見ても決して高い水準とは言えない。大学へ進学しない理由として、矢野ら（2006）は、大学の授業料が家計の重い負担となっており、進学したくてもすることができず、進学をあきらめている層が存在しているということを明らかにした。しかし近年、進学に必要な学費や生活費を支援してくれる奨学金制度が導入されている。

これらのことから、大学生活がその後のキャリア選択において意味のあるものだとすることを証明することができれば、大学進学率は多少なりとも増加するのではないだろうか。しかし、多くの大学は就職支援において力を入れており、また大学入学後のキャリア教育についての研究も数多くなされているにもかかわらず、実際にキャリアを選択する際に彼らにとって何が影響を及ぼしているのかについての研究はいまだ散見される程度である。

そこで本研究では、卒業後の進路が決定している大学4年生を対象に調査を行い、彼らのキャリア選択に影響を及ぼしている要因について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【調査対象】

卒業後の進路が決定している大学4年生(n=10)

【調査期間】

2017年10月～11月

【調査方法】

- ・フェイスシート(大学、学部、性別等)
- ・1対1の半構造化インタビュー調査

【分析方法】

KJ法におけるグループ編成

3. 主な結果と考察

KJ法によるグループ編成を行った結果、①経験、②スキル、③娯楽の3つに分類された。これらの3つの考えのうち、①経験は、「学習意欲」「クラブ活動」「社会経験」「進路選択のプロセス」から形成された。また②スキルは、「専門性」「コミュニケーション能力」「人間関係」から形成され、③娯楽は「旅行」「自由」「好きなこと」「遊び」「趣味」から形成された。

大学でのクラブ活動や学習経験などの様々な経験を通して、専門性やコミュニケーション能力を養うことができることが明らかになり、そこで得た経験やスキルがキャリアを選択するにあたり影響を及ぼしているということが分かった。また、フェイスシートでの「就職活動の満足度」の得点が高い学生ほど、大ラベルの1つである大学生活での「経験」がキャリア選択に影響を及ぼしていることも分かった。さらには、自分の「好きなこと」を仕事にしたいと考える学生も多くみられ、元々幼少期の頃から好きであったという場合もあるが、大学生活を通じて自分の本当に「好きなこと」に出会えたというケースもみられた。そして、大学生活で得た経験を活かすことができ、かつ自分が好きなことを仕事にしたいと考える学生や、大学生活で得たスキルを活かすことができ、かつ自分の趣味を仕事にしたいと考える学生など、大学生が今後のキャリアを選択するにあたり影響を及ぼしている要因は1つではないことも明らかとなった。

4. 結論

本研究の結論は以下の3点である。

- 1) 大学生が今後のキャリアを選択するにあたり、大学生活を通して得た①経験、②スキルの2つと趣味や好きなことといった③娯楽の計3つ要因が影響を及ぼしている。
- 2) 必ずしも大学生活での経験がキャリア選択に影響を及ぼしているとは限らない。
- 3) 大学生が今後のキャリアを選択するにあたり影響を及ぼしている要因は、1つだけではなく、複数の要因が影響を及ぼしている。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の執筆にあたり、お忙しい中多くのご指導、ご鞭撻をいただきました水野基樹先生に心から感謝申し上げます。また、テーマ決定から調査、分析方法、論文の書き方まで丁寧にご指導してくださいました大学院生の皆様にも感謝しております。そして、自身の卒業論文で忙しい中、急なお願いにも関わらず、インタビュー調査に快くご協力くださった順天堂大学の仲間、地元の友人にも深く感謝申し上げます。皆様のご協力がなければ本論文の完成に至りませんでした。

お力添えをいただきました皆様、本当にありがとうございました。